命を守る医療と税

学校法人智辯学園智辯学園奈良カレッジ中学部３年　　辻本　大晟

僕は一歳の頃に一型糖尿病になった。一型糖尿病は一般的によく知られている二型糖尿病と違い、僕の様に小児の頃に発症する事が多く日本の小児では十万人に一人か二人の発症率と言われている。二型糖尿病と違い生活習慣が糖尿病発症には無関係な為、原因も不明な事が多く、膵臓からインスリンを分泌する事が十分にできない為、僕の場合は一歳で発症した時から食事の度に、ポンプまたはインスリン注射をしている。生涯にわたってインスリンを補充しなければならないので、生きていく限りは医療費負担がかかり、日本ＩＤＤＭネットワークの試算では約六十年間に支払う医療費は一千万円以上になるとされている。僕の両親はまだ赤ちゃんである一歳の僕が一型糖尿病になって今の医学ではまだ治らないと知った時、とても受け入れ難く、精神的には辛かったが、小児慢性特定疾患医療費助成制度のおかげで、金銭的には困らず安心して医療が受けられた事に感謝していると言っていた。税の支出で総額トップの社会保障である公的サービスの医療は僕の命を守ってくれている。

この夏に学校から、東京大学のキャンパスと研究室を見学させていただく機会に恵まれた。先輩方を見て、僕も将来は日本に貢献する研究をしたいと強く思った。僕が見学させてもらった大学の研究費や設備費も国の税の支出で、文教及び科学振興費として教育や科学技術の発展の為に税が活かされている。

僕はｉＰＳ細胞の研究者である山中伸弥氏を尊敬している。二〇一二年にノーベル医学生理学賞を受賞し、再生医療の研究をされている。僕は今はまだ治らない病気なら自分の力で治したいという気持ちがあり、この再生医療の研究にはとても興味がある。再生医療や幹細胞治療では患者自身の細胞の修復力を使って行う治療の為、副作用が少なく手術の必要もない。身体の負担は少なく高い効果が期待できるのだ。近い将来、この再生医療の研究で糖尿病が根治する日が来たらどうだろうか。毎日の食事の度のインスリン注射から解放され、低血糖や高血糖に悩まされず、大人になっても合併症に怯える事もない。僕と同じ気持ちの糖尿病患者だけでなく、脳梗塞、心筋梗塞、認知症、パーキンソン病など、世の中にあるたくさんの血管系疾患や神経系疾患の根治が期待できるのだ。その研究資金にも税は活かされている。

僕は一歳で一型糖尿病になったけれど、その事で人の病気の痛みもわかるようになった。病気で苦しむ人の助けや、希望につながる税の大切さも知った。国の税からこれまでの医学研究や医療保障によって僕は生かされている。今度は僕が医療や国に貢献できる研究や仕事をしたい。そして納税をすることで次の誰かの命を守ることにつながっていけたらいいと思う。